

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人佐賀県国際交流協会

1. 事業名称

佐賀県「生活者としての外国人」に対する日本語教育体制整備事業

2. 事業の目的

佐賀県には、佐賀大学周辺を除き、外国人住民は分散して在住している。そのため、日ごろ外国人住民に接する機会は少なく、地域に「生活者としての外国人」が存在しているという認識は薄く、彼ら、彼女らが日本語教育など公的な支援を必要としているという認識は少ない。

今後、地域日本語教育を充実させていくためには、県内で外国人住民の問題を地域課題として認識、情報共有し、地域住民との交流の推進、地域の理解のもとで日本語教室を実施できる環境を整備していく必要がある。

地域の日本語教室を充実させることで、外国人住民が日本人同様に活躍できる社会づくりにつなげていく。

3. 事業内容の概要

県内での効果的、効率的な日本語教育体制を構築するため、行政、地域住民等への日本語教育への理解促進に重点をおき、佐賀県日本語学習支援“カスタネット”(H23, H24文化庁日本語教育事業受託団体)と協働して、以下4つの取り組みを行う。

①日本語教育連絡会議: 県、市町関連部署および日本語教育関係者による連絡会議を実施し、県内の日本語教育について相互理解、情報の共有を進め、人材やノウハウの相互活用や連携した事業実施等について検討を行う。

②初級日本語集中講座: 県内4地域で日本語教育専門家による短期集中型の日本語講座を実施し、別途実施されるボランティア主体の地域日本語教室での学習に円滑につなげていく。

③日本語教育シンポジウム: 日本語教育の必要性について地域の理解を進めていくため、日本語教育シンポジウムを実施する。

④日本語支援ボランティア養成講座: 日本語教室のない県内2地域で、市町行政との連携のもと、日本語教育を行う人材の養成・研修の実施を行う。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 6月26日 14:30～ 16:00	2.5時 間	国際交流協会 会議室	貞松 明子 有瀬 尚子 早瀬 郁子 池上 順子 北村 玲 矢富 明德	①全体計画について ②佐賀県日本語教育連絡会議について ③初級日本語集中講座について ④日本語教育シンポジウムについて	①申請した全体計画について 目的・内容を出席者全員に説明 ②会議名称、開催時期、人選、 出席者依頼方法を検討 ③開催場所、開催時期、広報 手段を検討 ④実施時期、実施内容の検討
2	平成25年 11月28日 14:00～ 15:30	1.5時 間	国際交流協会 会議室	貞松 明子 有瀬 尚子 早瀬 郁子 北村 玲 矢富 明德	①委託事業全体進捗状況報告 ②第2回佐賀県日本語教育連絡会議について ③日本語教育シンポジウムについて	①委託事業全体の進捗状況の 確認 ②開催日時・場所、出席者再 確認、回答期限等を検討 ③日時・場所・実施内容を検討

【地方開催】(取組2及び取組4に関して)

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 5月16日 10:00～ 12:00	2時 間	神崎市役所	栗山倫美、間斉子、 貞松明子、有瀬尚子	日本語支援ボランティア養成講座の開催について	神崎市の外国人の実情、ボラ ンティア養成講座を開催する意 義、開催の周知方法、場所の 設定等
2	平成25年 5月19日 10:00～ 12:00	2時 間	伊万里市民セ ンター	川原京子、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の開催について	伊万里市の外国人の実情、初 級日本語集中講座の開催意 義、開催の周知方法等
3	平成25年 9月11日 16:00～ 18:00	2時 間	武雄市役所	小松政、岡本知大、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の趣旨説明、カスタネットの活動につ いて	武雄市の外国人の実情、ボラ ンティア教室の周知方法、初級 日本語集中講座の開催意義

4	平成25年 10月6日 18:00～ 20:00	2時 間	伊万里市民セ ンター	川原京子、 有瀬尚子	初級日本語集中講座の成果及び改善点	講座受講者の感想、講座内容 の分析。開催日程について。今 後の市での取組について
5	平成25年 10月15日 15:00～ 17:00	2時 間	小城市役所	福岡千紘、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の開催について	小城市の外国人の実情、初級 日本語集中講座の開催意義、 開催の周知方法、場所の設 定、託児設定
6	平成25年 12月16日 15:30～ 17:30	2時 間	武雄市役所	岡本知大、石橋正子、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の開催について	初級日本語集中講座の開催の 周知方法、場所の設定、託児 設定
7	平成26年 1月27日 14:00～ 16:00	2時 間	神崎市役所	栗山倫美、間斉子、 貞松明子、有瀬尚子	日本語支援ボランティア養成講座の成果及び改善点 初級日本語集中講座の開催について	ボランティア養成講座の分析、 今後の活動について。初級日 本語集中講座の開催意義、周 知方法、場所の設定
8	平成26年 2月3日 14:30～ 16:30	2時 間	小城市役所	福岡千紘、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の成果及び改善点	講座受講者の感想、講座内容 の分析。開催日程について。今 後の市での取組について
9	平成26年 3月5日 16:00～ 18:00	2時 間	武雄市役所	岡本知大、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の成果及び改善点	講座受講者の感想、講座内容 の分析。開催日程について。今 後の市での取組について
10	平成26年 3月18日 15:00～ 17:00	2時 間	神崎市役所	栗山倫美、 貞松明子、有瀬尚子	初級日本語集中講座の成果及び改善点	講座受講者の感想、講座内容 の分析。開催日程について。今 後の市での取組について

5. 取組についての報告

○取組1:佐賀県日本語教育連絡会議

(1) 体制整備に向けた取組の目標

課題やノウハウの共有、日本語教育人材の養成や積極的活用を推進する。

(2) 取組内容

市町国際関係課、大学、民間団体、日本語教育サポート団体等に呼びかけ、県内の日本語教育推進連絡協議会を実施する。各団体の活動状況等情報共有、課題抽出、連携事業の提案等を行う。

(3) 対象者

市町国際関係課、大学、民間団体、日本語教育サポート団体等、行政および日本語教育に関連のある関係者

(4) 参加者の総数 21 人

(出身・国籍別内訳)

日本 21人

(5) 開催時間数(回数) 3.5時間 (全2回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 9月25日 14:00～ 15:30	1.5時 間	佐賀県庁 会 議室	17人	日本17人	情報共有・課 題抽出	①会議設立趣旨説明 ②委託事業全体の説明 ③各出席からの現状・課題の発表 ④日本語教育シンポジウムへの協力依頼に ついて	なし	なし
2	平成25年 12月19日 13:30～ 15:30	2時 間	佐賀県庁 会 議室	12人	日本12人	情報共有・課 題抽出	①県内日本語教室と行政との連携について ②日本語教育シンポジウムについて	なし	なし

- (7) 参加者の募集方法
各出席者の所属先へ文書にて出席依頼を実施
- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)
県内における日本語教育関係者(行政・大学関係者・日本語教室代表)が一堂に会し情報共有を行った。
- (9) 取組の目標の達成状況・成果 検証方法も含めて具体的に記載すること。
教室同士の連携や行政と教室など、これまでは繋がりがなかったところに繋がりがうまれた。
- (10) 改善点について
行政担当者のスケジュール調整が難しく、出席者数が少なかった点

○取組2-①: 初級日本語集中講座in伊万里

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者(生活者としての外国人、以下、学習者と述べる)の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。
・一般に、上記目的は地域日本語教室で活動するボランティアが担っている現状があるが、日本語教育専門家が行うことで、その負担を軽減できる。また最寄りの日本語教室に繋ぐことで、学習者の継続的な日本語学習を促す。
- (2) 取組内容
・「1日6時間×6日(＋発表会2時間)計38時間」をひとまとまりとした講座を、伊万里市で開催する。
・日本語基礎文法習得(名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体を体系的に学習するインプット中心の講座を実施)
・最終日に当該地域の日本語教室のボランティアを招き発表会を行い、継続学習、継続交流のための橋渡しを行う。
- (3) 対象者
来日直後の外国籍住民及び、日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない生活者としての外国人
- (4) 参加者の総数 5人
(出身・国籍別内訳 中国1人、フィリピン2人、タイ1人、ウガンダ1人)
- (5) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6 回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 月9日15 日9:00～ 16:00	6時間	伊万里市民センター	3人	ウガンダ(1人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1人)	講座説明、挨拶、数字、月、日、自己紹介、名詞文、動詞文	挨拶、教室での指示語の説明、語彙導入をしたのち、月日の読み方、数字をする。名詞文の文型を練習した後、自己紹介をしながらお互いのことを知る。	有瀬尚子(講師)	
2	平成25年 月9日16 日9:00～ 16:00	6時間	伊万里市民センター	4人	ウガンダ(1人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1人)、 中国(1人)	動詞の語彙、動詞文	前日の復習、動詞の活用、動詞文の文型を練習した後、自分の行動を話したり、書いたりする。助詞の意味、用法を学ぶ。	有瀬尚子(講師)	
3	平成25年 月9日20 日9:00～ 16:00	6時間	伊万里市民センター	1人	中国(1人)	形容詞の語彙、形容詞文	今までの文型の確認、形容詞の活用、形容詞文の文型を練習した後、感想や意見を言う。	貞松明子(講師)	
4	平成25年 月9日23 日9:00～ 16:00	6時間	伊万里市民センター	1人	フィリピン(1人)	名詞文、動詞文、形容詞文	今までの文型の確認、動詞、形容詞の活用を学ぶ。動詞文、形容詞文の文型を練習した後、感想や意見を言う。	有瀬尚子(講師)	
5	平成25年 月9日29 日9:00～ 16:00	6時間	大坪公民館	3人	タイ(1人)、 フィリピン(2人)	動詞文、形容詞文	動詞の活用、て形、た形、ない形、辞書形がわかり、自分の行動が言える。許可や禁止などが言える。	有瀬尚子(講師)	
6	平成25年 月10日6 日9:00～1 8:00	8時間	伊万里市民センター	10人	中国(1人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1人)、 日本人(7人)	普通体、丁寧体	動詞の普通形、丁寧形を学ぶ。人や場所によって言い方が変わる待遇表現がわかる。全体のまとめをする。日本語スピーチの作文をする。交流会で日本語のスピーチを発表する。	有瀬尚子(講師)	神代幸枝(補助者)

(7) 参加者の募集方法

市役所だよりに掲載、市役所の市民課窓口、各公民館、図書館、生涯学習センターにチラシを置く。以前の集中講座に参加した外国人にお願いして周知してもらう。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

集中講座での風景。

- ・当団体作成のテキストを使い、基本文、助詞、動詞、形容詞の活用、丁寧体普通体を学ぶ。
- ・動詞文の学習をしている。日本語で重要な助詞を重点的に学んだ。
- 適切な助詞を使って、作文をしている。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・長年住んでいる人がほとんどだったが、今まで勉強する機会がなかったので、このような講座が伊万里市で行われたのは良かった。
 - ・一緒に勉強していくうちに、互いに励ましあいながら学ぶ様子がみられた。
 - ・今まで日本人との会話で困ることはなかったが、日本語の文法を理解したことで今まで知らなかった語彙や文型を学ぶことができた。
 - ・学習意欲が高まり、漢字を学んだり日本語能力試験に向けて勉強したりするようになった。
 - ・伊万里市は立ち上げたばかりの日本語教室だったため、最終日に外国人参加者との交流ができ、日本人側にも活動への動機付けにもなった。
 - ・伊万里市行政担当者とカスターネットとの信頼関係があり、日程変更などの調整がスムーズにできた。
- ※学習者(生活者としての外国人)の感想
- ・いい勉強になりました。前のまちがいのとこ、今度の講座でよくわかりました。
 - ・にほんごのきほんをおしえてもらったことは よかったです
 - ・来年も受けたいとおもっています。

(10) 改善点について

- ・学習者が全員働いていることもあり、平日1週間の日程を組むのは難しかった。それぞれの都合に配慮できず全日程に参加できなかった。
- ・日曜日ごとに組んだことで一ヶ月に及ぶ講座になった。今回のように働いている人には復習をしながら学ぶことができたが、来日したばかりの人に対してはこのような日程では思うような成果が出ないだろう。

○取組2-②:初級日本語集中講座in小城

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者(生活者としての外国人、以下、学習者と述べる)の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。
- ・一般に、上記目的は地域日本語教室で活動するボランティアが担っている現状があるが、日本語教育専門家が行うことで、その負担を軽減できる。また最寄りの日本語教室に繋ぐことで、学習者の継続的な日本語学習を促す。

(2) 取組内容

- ・「1日6時間×6日(+発表会2時間)計38時間」をひとまとまりとした講座を、小城市で開催する。
- ・日本語基礎文法習得(名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体を体系的に学習するインプット中心の講座を実施)
- ・最終日に当該地域の日本語教室のボランティアを招き発表会を行い、継続学習、継続交流のための橋渡しを行う。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民及び、日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない住民

(4) 参加者の総数 8人

(出身・国籍別内訳 オーストラリア1人、南アフリカ1人、インドネシア1人、中国4人、アメリカ1人)

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民及び、日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない生活者としての外国人

(5) 開催時間数(回数) 38 時間 (全 6 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 1月10日 9:00～ 16:00	6時間	保健福祉セン ターゆめりあ	3人	中国(2人)、南 アフリカ(1人)	講座説明、挨拶、数字、月、日、自己紹介、名詞文、動詞文	挨拶、教室での指示語の説明、語彙導入をしたのち、月日の読み方、数字をする。名詞文の文型を練習した後、自己紹介をしながらお互いのことを知る。	池上順子(講師)	
2	平成26年 1月11日 9:00～ 16:00	6時間	保健福祉セン ターゆめりあ	7人	中国(4人)、南 アフリカ(1人)、オーストラ リア(1人)、ア メリカ(1人)	動詞の語彙、動詞文	前日の復習、動詞の活用、動詞文の文型を練習した後、自分の行動を話したり、書いたりする。助詞の意味、用法を学ぶ。	貞松明子(講師)	
3	平成26年 1月12日 9:00～ 16:00	6時間	保健福祉セン ターゆめりあ	6人	中国(4人)、南 アフリカ(1人)、アメリカ(1人)	形容詞の語彙、形容詞文	今までの文型の確認、形容詞の活用、形容詞文の文型を練習した後、感想や意見を言う。	有瀬尚子(講師)	
4	平成26年 1月13日 9:00～ 16:00	6時間	保健福祉セン ターゆめりあ	7人	中国(4人)、南 アフリカ(1人)、オーストラ リア(1人)、ア メリカ(1人)	存在文、所在文、動詞の分類、て形	物や人物の存在を表す存在文、所在文を学ぶ。動詞の活用別に分類ができる。依頼や指示を言う時のて形が正しくわかる。	有瀬尚子(講師)	
5	平成26年 1月18日 9:00～ 16:00	6時間	保健福祉セン ターゆめりあ	5人	中国(4人)、南 アフリカ(1人)	て形の応用、動詞の活用	許可や依頼、順次動作をつなぐ言い方を学ぶ。日常生活行動が言える。辞書形、ない形、た形活用がわかる。	早瀬郁子(講師)	
6	平成26年 1月19日 9:00～ 18:00	8時間	保健福祉セン ターゆめりあ	12人	中国(4人)、南 アフリカ(1人)、アメリカ(1人)、インドネシ ア(1人)、交流 会参加者:日本 人(5人)	存在文、所在文、動詞の分類、て形	動詞の普通形、丁寧形を学ぶ。人や場所によって言い方が変わる待遇表現がわかる。全体のまとめをする。日本語スピーチの作文をする。交流会で日本語のスピーチを発表する。	貞松明子(講師)	神代幸枝(補助者)

(7) 参加者の募集方法

市報に載せる。市のALTへの周知のため学校教育課へお話を伺う。各公民館、近隣の日本語教室へチラシを配る。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- ・当団体作成のテキストを使い、基本文、助詞、動詞、形容詞の活用、丁寧体普通体を学ぶ。
- ・最終日は日本語でスピーチ発表をした。皆さんスピーチの文章を考えている。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・日本語の初級文法を学んだことで、体系的に日本語を理解することができた。
- ・その後もボランティア教室等で継続して学習することができている。
- ・男女合わせて理想的な人数が集まった。
- ・学習意欲が高まり、漢字を学んだり日本語能力試験に向けて勉強したりするようになった。
- ・場所の利便性も良く、近郊の市町村からの参加があった。また、ボランティア教室を通じての参加者もいた。
- ・小城市の行政担当者や日本語教室との連携が良く、学習者への周知もよくできた。

※学習者の感想

- ・フォローアップ講座や他の文法を勉強したい。
- ・金曜日に参加できなかったのは残念だった。
- ・日本語は難しいが、楽しいです。

- (10) 改善点について
- ・日程が合わず参加できない人もいた。
 - ・幸い託児を必要とする参加者はいなかったが、託児を依頼するとなると一般のボランティア託児だったため、長時間の託児の活用が難しかった。来年度に向けて、託児施設の開拓が必要である。

○取組2-③: 初級日本語集中講座in武雄

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者(生活者としての外国人、以下、学習者と述べる)の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。
 - ・一般に、上記目的は地域日本語教室で活動するボランティアが担っている現状があるが、日本語教育専門家が行うことで、その負担を軽減できる。また最寄りの日本語教室に繋ぐことで、学習者の継続的な日本語学習を促す。
- (2) 取組内容
- (3) 対象者
- 来日直後の外国籍住民及び、日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない生活者としての外国人
- (4) 参加者の総数 6人
- (出身・国籍別内訳 中国5人、インドネシア1人)

- (5) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6 回)

- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 2月8日9: 00~ 16:00 16:00~ 18:00	6時 間	武雄市民文化 会館	5人	中国(5人)	講座説明、挨拶、数字、月、日、自己紹介、名詞文、動詞文	挨拶、教室での指示語の説明、語彙導入をしたのち、月日の読み方、数字をする。名詞文の文型を練習した後、自己紹介をしながらお互いのことを知る。	有瀬尚子(講師)	
2	平成26年 2月9日9: 00~ 16:00 16:00~ 18:00	6時 間	武雄市民文化 会館	5人	中国(5人)	動詞の語彙、動詞文	前日の復習、動詞の活用、動詞文の文型を練習した後、自分の行動を話したり、書いたりする。助詞の意味、用法を学ぶ。	有瀬尚子(講師)	
3	平成26年 2月15日 9:00~ 16:00 16:00~ 18:00	6時 間	武雄市民文化 会館	4人	中国(5人)	形容詞の語彙、形容詞文	今までの文型の確認、形容詞の活用、形容詞文の文型を練習した後、感想や意見を言う。	貞松明子(講師)	
4	平成26年 2月16日 9:00~ 16:00 16:00~ 18:00	6時 間	武雄市民文化 会館	4人	中国(5人)	存在文、所在文、動詞の分類、て形	物や人物の存在を表す存在文、所在文を学ぶ。動詞の活用別に分類ができる。依頼や指示を言う時のて形が正しくわかる。	貞松明子(講師)	
5	平成26年 2月22日 9:00~ 16:00 16:00~ 18:00	6時 間	武雄市民文化 会館	4人	中国(5人)	て形の応用、動詞の活用	許可や依頼、順次動作をつなぐ言い方を学ぶ。日常生活行動が言える。辞書形、ない形、た形活用がわかる。	早瀬郁子(講師)	
6	平成26年 2月23日 9:00~ 18:00 16:00~ 18:00	8時 間	武雄市役所	16人	中国(5人)、インドネシア(1人)、交流会参加者:ベトナム(1人)、タイ(1人)、フィリピン(1人)、日本人(7人)	存在文、所在文、動詞の分類、て形	動詞の普通形、丁寧形を学ぶ。人や場所によって言い方が変わる待遇表現がわかる。全体のまとめをする。日本語スピーチの作文をする。交流会で日本語のスピーチを発表する。	早瀬郁子(講師)	有瀬尚子(補助者)

- (7) 参加者の募集方法

武雄市のHP、市報、県国際交流協会のHPに載せる。公民館、図書館、保育園などにチラシを置く。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

・当団体作成のテキストを使い、基本文、助詞、動詞、形容詞の活用、丁寧体普通体を学んだ。
最終日は修了証を一人ずつ渡した。初日は緊張していた学習者も、最終日は和やかな雰囲気だった。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・香港から来日したばかりの人と長年日本に住んでいる中国の人と知り合いになり、講座を通して親睦を深めた。
 - ・武雄市担当者の手配で、保育士を頼んで託児ができ、学習者も安心して参加できた。
 - ・日本語教室からの紹介で学習者が集まり、教室との連携が取れた。
 - ・最終日には武雄市だけでなく、近隣の日本語教室のボランティアも参加し、地域を超えての交流ができた。
- ※学習者の感想
- ・コースデザインがよかった。
 - ・ベビーシッターがあったのがよかった。
 - ・日常会話などの日本語をもっと勉強したい。

(10) 改善点について

- ・講座が終わったあと、小さい子どもさんがいたこともあり、地域の日本語教室への紹介がスムーズにできなかった。
- ・佐賀市以外の地方の集中講座は平日連続しての集中講座の日程を組むのは難しかった。しかし、1日6時間という集中する時間は確保できた。

○取組2-④: 初級日本語集中講座in神埼

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者(生活者としての外国人、以下、学習者と述べる)の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。
- ・一般に、上記目的は地域日本語教室で活動するボランティアが担っている現状があるが、日本語教育専門家が行うことで、その負担を軽減できる。また最寄りの日本語教室に繋ぐことで、学習者の継続的な日本語学習を促す。

(2) 取組内容

- ・「1日6時間×6日(＋発表会2時間)計38時間」をひとまとまりとした講座を、神埼市で開催する。
- ・日本語基礎文法習得(名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体を体系的に学習するインプット中心の講座を実施)
- ・最終日に当該地域の日本語教室のボランティアを招き発表会を行い、継続学習、継続交流のための橋渡しを行う。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民及び、日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない生活者としての外国人

(4) 参加者の総数 4人

(出身・国籍別内訳 フィリピン2人、モルドバ1人、中国1人)

(5) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 3月2日9: 00～ 16:00 16:00～ 18:00	6時 間	神埼中央公園 体育館	3人	モルドバ(1 人)、フィリピン (2人)	講座説明、名 詞文、動詞 文、形容詞文 の復習	基本文の確認ののち、動詞分類、活用に応 用。	池上順子(講 師)	
2	平成26年 3月7日9: 00～ 16:00 16:00～ 18:00	6時 間	神埼中央公園 体育館	1人	モルドバ(1人)	普通形をつ かって	前日の復習、動詞の活用、動詞文の文型を 練習した後、自分の行動を話したり、書いたり する。助詞の意味、用法を学ぶ。	貞松明子(講 師)	
3	平成26年 3月8日9: 00～ 16:00 16:00～ 18:00	6時 間	神埼中央公園 体育館	1人	モルドバ(1人)	授受表現	物の授受表現が言える。他の人から受けた 行為を授受表現で言える。感謝の意味やソ ト、ウチの関係がわかり、正しく待遇表現が使 える。	有瀬尚子(講 師)	
4	平成26年 3月9日9: 00～ 16:00 16:00～ 18:00	6時 間	神埼中央公園 体育館	1人	モルドバ(1人)	て形の応用、 自動詞、他動 詞	て形を使い、家族や仕事などについて話す。 事柄、事象の状態が言える。自動詞、他動詞 の意味、役割がわかり、正しく使える。	貞松明子(講 師)	
5	平成26年 3月15日 9:00～ 16:00 16:00～ 18:00	6時 間	神埼中央公園 体育館	2人	モルドバ(1 人)、フィリピン (1人)	複文(と、た ら、のに、の で)	「たら～」を使い、その条件での判断、決定が 言える。「～と」を使い、ある事象が必然的に 起こったり、ある動作が起こることを正しく言え る	早瀬郁子(講 師)	
6	平成26年 3月16日 9:00～ 18:00 16:00～ 18:00	8時 間	神埼中央公園体	10人	モルドバ(1 人)、フィリピン (1人)、中国(1 人)、日本人(7 人)	待遇表現(敬 語)	人や場所によって言い方が変わる待遇表現 (尊敬語、謙譲語)がわかる。全体のまとめを する。日本語スピーチの作文をする。交流会 で日本語のスピーチを発表する。	早瀬郁子(講 師)	貞松明子(補助 者)

(7) 参加者の募集方法

神埼市のHP、県国際交流協会のHPに載せる。公民館、図書館、保育園などにチラシを置く。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

- ・当団体作成のテキストを使い、基本文、助詞、動詞、形容詞の活用、丁寧体普通体を学んだ。
- ・今回の講座では普通形の応用(～んです、名詞修飾等)や、授受表現、待遇表現(尊敬語・謙譲語)まで学習者のレベルに合わせた形でやや中級に近い内容を学習した。
- ・日本語教室の場所と時間が講座と重なったこともあり、講座の中にボランティアとの対話活動を取り入れた。学習者には課題を与え、ボランティアとの対話をしたが、神埼市の日本語教室は始まったばかりでもあり、いい実習経験にもなった。
- ・学習者の熱心な勉強態度を見たことで、日本人側も自分が使っている日本語を学び直そうという気持ちが出た。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・神埼市以外の近隣の町や遠方の市からの参加者がほとんどだったが、この講座が開催されたことで学習する機会が得られたことは良かった。
- ・講座の中で日本語教室のボランティアとの対話活動ができたのは良かった。
- ・人数が少なく、全員が初級は学校等で勉強したことがある人でもあり、初級文法だけでなく学習者に合わせた文法学習ができた。

- (10) 改善点について
- ・3月という年度替わりの時期でもあり、日程の都合がつかず、全日程に参加できない人もいた。
 - ・準備の日にちが短く、神埼の市報に載せることができなかった。広報に時間をかけられなかった。
 - ・日本語教室ができてまだ日が浅いため神埼市周囲在住の外国籍住民への認知が低く、周知があまりできなかった。
 - ・神埼市だけでなく、近隣の市町村の行政担当者とも連携して行うべきだった。

○取組3:日本語教育シンポジウムの開催

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
地域住民に日本語教室の周知および理解促進を図る。
- (2) 取組内容
地域での外国人住民への日本語教育支援活動について、広く地域住民へ周知し、日本語教育の必要性を理解いただくために、シンポジウムを開催した。
- ・米勢治子氏の講演会
 - ・県内各日本語教室の紹介
 - ・学習者による日本語スピーチ
 - ・パネルディスカッション
- (3) 対象者
地域住民、日本語教室関係者、行政担当者、教育関係者
- (4) 参加者の総数 75人
(出身・国籍別内訳)
日本 66人、中国 2人、韓国 2人、イギリス2人、フィリピン2人、アメリカ1人
- (5) 開催時間数(回数) 3時間20分 (全1回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 2月1日 13:00～ 16:20	3時 間20 分	アバンセ 第3 研修室	75人	日本66 中国2 韓国2 イギリス2 フィリピン2 アメリカ1	地域住民に 日本語教室 の周知および 理解促進を 図る。	地域での外国人住民への日本語教育支援活動について、広く地域住民へ周知し、日本語教育の必要性を理解いただくために、シンポジウムを開催した。 ・米勢治子氏の講演会 ・県内各日本語教室の紹介 ・学習者による日本語スピーチ ・パネルディスカッション	米勢 治子	なし

- (7) 参加者の募集方法
当協会ホームページ、公共施設でのチラシ配布、県内各日本語教室での周知、新聞告知
- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)
県内では初めて実施する日本語教育のシンポジウムであり、日本語教室関係者はもとより地域住民や行政関係者が参加し、新聞各社の取材も行われた。
- (9) 取組の目標の達成状況・成果
取組実施後は新聞各社で報道され、当日の参加者だけではなく県内の広い範囲で日本語教育についての周知ができた。
- (10) 改善点について
県内それぞれの教室紹介が出来たが、その分時間がかかってしまい、終了時間が遅れてしまった点。

○取組4:日本語支援ボランティア養成講座 in神埼

- (1) 体制整備に向けた取組の目標：
日本語教室の空白地域である佐賀県神埼市に日本語教室を立ち上げる
- (2) 取組内容： 説明会(1回)養成講座(6回)ミーティング(3回)実習(6回)
- (3) 対象者： 日本語支援ボランティアに関心のある地域住民
- (4) 参加者の総数 22人
(出身・国籍別内訳 日本22人)
- (5) 開催時間数(回数) 32時間 (全16回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 9月7日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	18人	日本(18人)	説明会 講座の趣旨 説明	佐賀県及び神埼市周辺地域の在住外国人の 状況説明 地域日本語教室における日本語支援のあり 方 佐賀県国際交流協会及び神埼市の教室支援 体制について	貞松明子(講 師)	有瀬尚子
2	平成25年 9月14日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	12人	日本(12人)	講座① 日本語支援 ボランティアと は	日本語を外国語として捉え、日本語を媒介語 として使って交流する 日本語の基礎文法を知る	貞松明子(講 師)	早瀬郁子
3	平成25年 9月21日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	13人	日本(13人)	ミーティング ①	これから長く付き合う人たちと仲間になる 神埼日本語教室の枠組みを考える 教室の名称、役割、日程、周知活動について	貞松明子(講 師)	神代幸枝
4	平成25年 9月28日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼中央公園 体育館	9人	日本(9人)	講座② 日本語の教 科書を見てみ よう	コースデザイン、シラバスについて、動詞文、 助詞について	有瀬尚子(講 師)	早瀬郁子
5	平成25年 10月5日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	12人	日本(12人)	ミーティング ②	実習にあたって、担当を決める	有瀬尚子(講 師)	貞松明子
6	平成25年 10月12日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	12人	日本(12人)	講座③ 日本語の教 科書を使って みよう①	「にほんごこれだけ」を使って、様々な練習方 法、隠れ文法を知る。グループに分かれて、 テキストの担当課について話し合う	早瀬郁子(講 師)	神代幸枝
7	平成25年 10月19日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼中央公園 体育館	9人	日本(9人)	ミーティング ③	教室の名称、代表、会計、活動場所、日程に ついて。実習の担当とトピックの確認	貞松明子(講 師)	有瀬尚子
8	平成25年 10月26日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼中央公園 体育館	10人	日本(10人)	講座④ 日本語の教 科書を使って みよう②	一般的な授業の流れを知り、教案を作成す る。トピックについてグループに分かれて具 体的に教案を作る	有瀬尚子(講 師)	神代幸枝
9	平成25年 11月16日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	11人	日本(11人)	実習①	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	貞松明子(講 師)	有瀬尚子
10	平成25年 11月23日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼中央公園 体育館	9人	日本(9人)	実習②	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	有瀬尚子(講 師)	早瀬郁子
11	平成25年 11月30日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	6人	日本(6人)	実習③	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	早瀬郁子(講 師)	貞松明子
12	平成25年 12月7日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	6人	日本(6人)	講座⑤ 実習後の感 想、次回の実 習へ向けて の準備	「標準的なカリキュラム案」の使い方説明。次 回のトピックへ向けての改善点を話し合う。グ ループワークで教案を作成する	貞松明子(講 師)	池上順子
13	平成25年 12月14日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	8人	日本(8人)	実習④	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	貞松明子(講 師)	有瀬尚子
14	平成26年 1月11日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	8人	日本(8人)	実習⑤	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	早瀬郁子(講 師)	馬場三佳
15	平成26年 1月18日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼市中央公 民館	7人	日本(7人)	実習⑥	外国人を相手に実際に教案に沿って日本語 支援を行う。その後、見学者の意見も聞きな がらの反省会を行う	有瀬尚子(講 師)	貞松明子
16	平成26年 1月25日 15:00～ 17:00	2時 間	神埼中央公園 体育館	8人	日本(8人)	講座⑥ 今後の活動 に向けて	講座全体を通しての感想、日本語ボランティ アとして心がけること、来月からの活動につ いて活動者主体で話し合う	早瀬郁子(講 師)	有瀬尚子

(7) 参加者の募集方法

- ・チラシを作成し神崎市とその周辺の市町に依頼して市役所・公民館等に配置
- ・神崎市報に掲載
- ・FM佐賀の神崎市民向け放送時間に出演して広報

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

前半は講座とミーティングを交互に行なった。講座ではボランティア教室で活動するための基礎的な知識や、実習で使う教材の教材研究を行なって、日本語を使つての交流の仕方を学んだ。
また、講座と並行してミーティングを行なった。これは、仲間作りをするための大切な時間になった。講座終了後に一緒に教室を立ち上げる仲間として、お互いを知り、親しく関わりを持てるような細工をした。
後半は主に実習を行った。3班に分け、各受講者が2回の実習を体験した。実習①②③の1回目はペアを組み、2人で学習者に対応した。どんな対応をするか一緒に考えて、一緒に教材作りをすることで、自信をもって実習に臨めたようだ。講師は実習前にメールや対面で実習に臨む受講者とやりとりを繰り返してアドバイスを与えた。実習④⑤⑥の2回目は各受講者が一人で外国人に対応した。2回目なのでコツがつかめたようで、自信をもって楽しい交流ができた。実習の各回とも、担当者以外は見学者として実習を見つめた。人の対応を観察することがとてもいい勉強になる。お互いに支え合っている実習ができ、それが自然に教室立ち上げの流れに繋がった。

後半は実習中心。1人2回行い、他の方の実習見学も重要な学びの場と位置付けた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・それまで日本語支援ボランティアに興味があっても、なかなか一步を踏み出せないでいた方々が、講座を受講する中で教室立ち上げに向けてモチベーションを上げ、教室開設にたどり着いた。既存の教室がある佐賀市と鳥栖市の中間地点に日本語教室ができた意義は大きい。
 - ・時間をかけて講座を行ったため、仲間意識も強くなり、外国人学習者との関係も構築できた。今後の活動に、受講生が自信をもって臨んでいける。
- ＜受講生の感想＞
- ・講座を受けて、佐賀県にも日本語に困っている外国人が多くいることに気づいた。そして、日本人のボランティア心は素晴らしいと思った。仕事上、あまり参加できないかもしれないが、少しでも力になればと思う。
 - ・有志の方々の思い入れをすごく感じられる有意義な講座だった。ボランティアの原点、また初心を再認識してもらって、自分も成長したいと思った。メンバーの方たちもすばらしい。
 - ・養成講座で学んだことを、反省と勉強で進んでいこうと思う。
 - ・実際に教室立ち上げの話になり、市役所への申請、日時の設定など、何を一番に決めていかなければならないのか、混乱してきた。ほんと、大変なことですね。一つのことを社会的に起こしていくには。まだまだ日本語ボランティアはフワフワしていてしっかりつかめないが、一緒に考えていける仲間ができたことは心強い。

(10) 改善点について

- ・当初想定していた人数が集まらなかった。神崎市という場所が広く人材を集められると踏んでいたが、周知活動の甘さがあったことは否めない。
- ・周辺の市町村との連携を取れば、もう少し周知できたであろう。
- ・FMラジオに出演したが、それを聞いて応募した方がいらしたので効果があったといえよう。
- ・講座とミーティング、後半には実習を行う講座全体の構成は、よかったと思う。週末土曜日の午後に講座の時間を設定したが、参加が難しい受講者もでてきた。ボランティア活動なので、それぞれのペースで息長く活動していただきたい。

(7) 参加者の募集方法

当協会ホームページ、公共施設でのチラシ配布、県内各日本語教室での周知、新聞告知

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

県内では初めて実施する日本語教育のシンポジウムであり、日本語教室関係者はもとより地域住民や行政関係者が参加し、新聞各社の取材も行われた。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

取組実施後は新聞各社で報道され、当日の参加者だけではなく県内の広い範囲で日本語教育についての周知ができた。

(10) 改善点について 取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

県内それぞれの教室紹介が出来たが、その分時間がかかってしまい、終了時間が遅れてしまった点。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

佐賀県には、佐賀大学周辺を除き、外国人住民は分散して在住している。そのため、日ごろ外国人住民に接する機会は少なく、地域に「生活者としての外国人」が存在しているという認識は薄く、彼ら、彼女らが日本語教育など公的な支援を必要としているという認識は少ない。

今後、地域日本語教育を充実させていくためには、県内で外国人住民の問題を地域課題として認識、情報共有し、地域住民との交流の推進、地域の理解のもとで日本語教室を実施できる環境を整備していく必要がある。

地域の日本語教室を充実させることで、外国人住民が日本人同様に活躍できる社会づくりにつなげていく。

(2) 事業目的の達成状況

地域での認識が低い「生活者としての外国人」や「日本語教育」に関して、日本語教育シンポジウムを開催した後は、新聞報道などにより認識度が上がり、ボランティアの参加者や新規学習者が増えることになり当初の目的は達成できた。

(3) 地域における事業の効果、成果

・市町行政の関与が少なく、日本語教室実施地域でも認知されていない。

→取組1の連絡会議を実施したことにより、行政担当者と地域の日本語教室担当者が顔を合わせることとなり、行政への認知度が上がり、市の広報紙で日本語教室が周知された。

・外国人住民と接する機会がないため、外国人住民や地域日本語教育に対し理解が進まない

→取組3の日本語教育シンポジウムでは学習者のスピーチを実施したことにより、地域に生活する外国人の生の声を聞き、また身近な公民館などで日本語教育が実施されていることを周知する機会となった。

・県内5市でボランティアによる日本語教育が実施されているが、週1回程度の実施であり、特に日本語初級者にとっては、学習効率が悪く、レベルが上がりにくい。

→取組2の日本語集中講座では、1日6時間×6日間の集中した学習環境で実施したことにより、初級学習者の基礎文法が飛躍的に向上することになった。

・日本語教室がない地域が多く存在する

→取組4の日本語支援ボランティア養成講座の実施により、これまで地域に日本語教室が存在しなかった神崎市に日本語教室が開設されることになった。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

会議の実施では出席者のスケジュール調整が難しく、行政担当者の出席が少なかった点。

ii 今後の課題

新規に立ち上がった教室のサポートの実施。

iii 今後の活動予定

今年度は教室立ち上げを目的とした養成講座を実施したが、今後はボランティアのスキルアップを目的とした養成講座を実施する